

Page1

こんにちは。

竹島鉄工建設の〇〇と申します。

本日は私たち竹島鉄工建設がどんな会社なのか、
どんな魅力があるのか、実際にどんな仕事をするようになるのかについて、順番に紹介させていただきます。

みなさんどうぞよろしく申し上げます。

ではまず、竹島鉄工建設が、どんな事業を行っている会社なのか、紹介させていただきます。
会社の紹介動画がありますので、まずはこちらをご覧ください。

Page4

竹島鉄工建設は、高層ビルやショッピングモール、工場や橋など、
大型建築の骨組みである、鉄骨の設計、製造、建方までを手掛けている企業です。
グランフロント大阪や、あべのハルカスなどは、みなさんご存じなのではないでしょうか。

どちらの建物にも、竹島鉄工建設で製作した鉄骨が使用されています。

竹島鉄工建設は、技術力の高さに定評がある企業で、
設計や製造に、先進的な IT 技術を取入れていて、複雑な形状のものを得意とすることが
評価されています。

Page5

オフィスだけでなく工場部門でもパソコン、iPad の活用が進んでおり、
会社全体では合わせて 200 台近くを運用しています。

コミュニケーションツールとしての活用や、図面のペーパーレス化をはじめ、
工場でも工程管理や検査業務に利用するなど、幅広く活用しています。

Page6

工場に隣接しているオフィスは、近年新築されていて広くてきれいです。

オフィスには設計部門や管理部門が入っており、こちらでは現在 70 名ほどが勤務しています。

オフィス部門では女性スタッフも多く活躍しています。

竹島鉄工建設では新しい技術や考え方を積極的に取り入れています。

Page7

竹島鉄工建設は 1971 年に設立され、今年で 51 歳となります。

従業員数は現在 170 名ほど、工場の敷地面積は 4 万 m² 以上あり、東京ドーム 1 個分に近

い大きさです。

人員数、敷地面積とも、地域で最大規模の企業です。

所在地の有田川町は、和歌山県の中部に位置していますが、

工場は高速道路へのアクセスが良く、大阪へは40分程の時間で行くことができます。

また2025年に、和歌山県海南市に現在の2倍の面積の新工場を設立予定となっており、完成すれば、あわせて東京ドーム3個分の敷地面積となる予定です。

技術的にも、会社規模的にも、竹島鉄工建設は進化を続けています。

Page8

グランフロント大阪や、あべのハルカスの他にも、

中之島フェスティバルタワーや大阪梅田ツインタワーズ、関東では有明アリーナやJR横浜タワーなど、

ランドマークと呼ばれる大型建築物の鉄骨を手掛けています。

Page9

売上高が単独で一兆円を超える、スーパーゼネコンと呼ばれる企業様が主な取引先となっていますので、

仕事の受注は安定しており、コロナ渦でも好調な業績を維持しています。

受注は大型案件が基本ですので、工期は複数年が通常で、現時点では3年先まで※仕事が決まっている状況です。※2023-1 現在

Page10

直近5年間の売り上げは40億から50億円で推移しています。

政府の中小企業庁によると、売上高が10億を超える中小企業は全体の上位3%程度※とのことですので、

竹島鉄工建設は売上規模の面でも非常に優良な企業と言えます。

※中小企業庁 HP で解説されている情報による。

※https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2021/chusho/b1_2_1.html

Page11

竹島鉄工建設では、アメーバ経営と呼ばれる経営管理方法を採用しています。

これは部門や部署を小さな経営単位として個別評価し、

会社全体としてはその集団同士の共同経営とみなすような管理方法です。

システム管理の手間は大きいのですが、

透明性が高く、全員参加型であり、会社の成長の原動力となっています。

Page12

おおまかな事業内容の紹介は以上です。

新しい技術を取り入れながら、大きいものを作っている、ということは伝わったでしょうか。

続いて、職場としての魅力の PR です。

Page13

竹島鉄工建設は従業員を大切にしている会社です。

経営理念でも、従業員の幸せを追求することを定めています。

また、スタッフの割合は30代以下が6割でそのうち20代以下が4割と若いスタッフが多く、職場は活気があります。

女性スタッフも多く、働きやすい職場環境です。

休憩所でのフリードリンクや、弁当代の半額補助など、従業員のサイフにもやさしいです。

有給もきちんと取得できます。

Page14

竹島鉄工建設は、地域経済への影響が大きく、成長性が見込まれる事業者であるとして、経済産業省から「地域未来けん引企業」に認定されています。

現在全国で認定されているのは4,700社ほどです。

竹島鉄工建設は、国からも認められている成長企業です。

Page15

一流企業の取引相手として、自社にも法律やルールをきちんと守ることが求められています。

また製造業であり、仕事は何より安全が第一ですので、

竹島鉄工建設は落ち着いて働くことができる社風となっています。

またアメーバ経営の全員参加の方針によって、自分の意見を持って働くことが尊重されています。

Page16

竹島鉄工建設という会社に、興味を持っていただけたでしょうか。

今はコロナでできていませんが、部署単位での食事会などのイベントも、会社負担で開催されます。

先にお伝えしたように、新工場の建設も決まっていますので、

一緒に会社を支えてくれるスタッフを募集しています。
続いて、具体的にどんな仕事があるのか、鉄骨の製造工程に沿って紹介させていただくのですが、
ここでちょっと気分転換に、竹島鉄工建設で導入している IT 技術の紹介動画がありますので、見てもらおうと思います。
時間は7分ぐらいです。

Page17

ではここからは、もし竹島鉄工建設で働くこととなった場合、どのような業務につくことになるのか、
業務のおおまかな流れに沿って、各部署の紹介を行いたいと思います。

Page18

竹島鉄工建設は、建築物の骨組みである鉄骨の、設計から製造、建て方までを行っています。
案件を受注すると、先方企業様と打ち合わせを行い、鉄骨部の3Dモデルデータ設計を行うことから仕事が始まります。

Page19

まずは設計と工務の紹介です。

Page20

設計は BIM ソフトと呼ばれる、3Dモデリングアプリケーションを用いて行っています。
従来のような図面を作成する業務ではなく、鋼材情報を持つ3Dモデルパーツを組み合わせ、ビルディングデータを作成する業務です。
図面はアプリケーションの機能によって平面図が作成されます。
工務は設計データに含まれる鋼材情報をもとに材料の手配を行います。製造部署との連携役であり、製造作業の進捗情報を管理しています。

Page22

続いては製造業務の紹介です。

Page23

鉄骨の製造は竹島鉄工建設の中心となる業務です。
複雑な形状の鉄骨製作が多く、大きく分けると、

前処理の加工工程、
組み立て工程、
溶接工程
に分かれます。

竹島鉄工建設では4面ボックスと呼ばれる、強度の高い柱材の製作も行っています。
これは全国でも製作できる工場が非常に少なく、自社の強みの一つとなっています。

Page26

続いては検査業務の紹介です。

Page27

検査担当者は、できあがった製品が図面どおりに作成されているか、
寸法や、組み付け部品位置などを確認します。
また、超音波で溶接強度のチェックを行うなど、目では見えない部分も検査します。
定期的実施される、顧客立ち合いの製品検査対応なども業務です。

Page28

続いて出荷業務の紹介です。

Page29

できあがった製品の社内運搬や、建築現場へのトレーラー手配などを管理しています。
大型トラックや移動式クレーンを運転したりしますが、そのために必要な資格は
全額会社負担で取得できます。

Page31

続いて現場管理業務の紹介です。

Page32

送りだされた製品を現場で引取り搬入し、施工管理を行う業務です。
現在、大阪・東京の現場で活躍しています。
現場での仕事になりますので、転勤となりますが、
転勤先での住居は全額会社負担、月1回の帰省代も全額負担しています。
また諸手当も手厚くなっています。

Page33

その他、

生産を統括管理する生産管理部署、
会社経理や事務処理を行う総務部署、
設備機器の保全を行う営繕部署
などによって会社が成り立っています。

Page34

業務内容についての紹介は以上です。
続いて、就業環境の説明をさせていただきます

Page40

会社説明は以上となります。
興味を持って頂けたでしょうか。
若い世代ががんばっている会社ですので、ぜひみなさんにも一緒に働いていただければと
思います。
本日はお時間いただき、ありがとうございました。 （終了）